

今月のコラム

屋上緑化はブラウンルーフ時代



RHS Jエンタープライズ
村松 誠

私は今回理事を拝命いたしましたRHS Jエンタープライズ(株)の村松でございます。英国王立園芸協会日本支部(RHS J)の専務理事職も拝命しており、園芸趣味人たちの意見が皆様の会の方向性に何らかの寄与に結びつけば今生の極みでございます。今回は「屋上緑化の最新実践理論『ブラウンルーフ』」を捉えました。協会RHS Jの5月号の特集でシェフィールド大学で博士号を取得した永瀬彩子博士が詳しく語ってくれています。「ガーデン」につきましては英国王立の名のごとく女王を総裁と仰ぎ、組織として1804年に創設され「イングリッシュガーデン」を実践と理論まで高めました。この理論の完成は、産業革命の成果に酔いしれていたヴィクトリア朝時代、アーツ・アンド・クラフツ運動と期を同じくしてウィリアム・ロビンソンや画家志望であったガートルード・ジーキルが庭園の設計に絵画の手法を導入し庭づくりを提唱していきました。まさに人工の技と理論で「自然」をガーデンというキャンパスに描いていきました。この英国ならではの屋上緑化の新潮流が誕生しつつあるようです。近代的屋上庭園は昭13年に公開された8000㎡のロンドン「デリー&トムズ ルーフガーデン」の庭園から始まりブームが世界的に拡大していったといわれています。翌年欧州で第2次世界大戦勃発のころで日本には概念がまだ育っていなかった時代。近代建築での本格的な屋上緑化は昭30年代後半ころからですが、その加重と踏みかめられる土の劣化でメンテナンスに想像以上の経費がかかり、結果、都心商業施設では経費節減から屋上閉鎖という「断腸の思いでのクローズ」となります。英国では主目的が「レクリエーションの場」から「環境保全効果のための場」に変化してきており1894年会社「ナショナル・トラスト」創業・1907年に法を制定したこの国は新コンセプトに進化をはじめています。管理しやすい『枯花摘み無く昆虫もいない屋上緑化や公園・街路樹は本当の自然なのであろうか?』の疑問への答えなのかもしれません。バッタも蝶もいない小鳥もいない植物だけある緑化は正しいのか?

人間の生活圏から絶滅種認定でない「種」が消える。何の連鎖が次に発生するのであろうか?。ビル化して自然から取り上げた地元の自然を屋上という空に開かれた空間に帰してあげる。そんな「ブラウンルーフ」活動。世界規模での「バタフライガーデン」も思想は同じであるが時代の進化の顕在化かもしれません。日本での実態で一番近く大きいのは三菱電機の稲沢製作所、この5500㎡もある屋上は、地面の緑化に頼らずに済むとのことで木曾三河川を模ってあるそうです。商売敵の案と考えるか先んじて取り込むかの選択枝項目であり、重要な意味は『生物多様性保全のための屋上緑化』で、テムズ川の保護のように自然土壌でその土地の自生種混合種子を用い土壌の厚さも統一せず岩や土壌を用いて枯れ枝も配置する。結果、昆虫と小鳥の格好の生息地が変わる。バーゼル(スイス)で研究開発された仕組は、英国へはリビングルーフ機構)が導入を図った。ただし英国はこの理論に従前の季節感や花の咲き蝶が舞う新型「Living roof」として進化を始めているそうです。北部イングランドの小学校の1年草の花畑と自生種の自然エリアでの構築がその代表例ということです。また英国人の口癖「Right Plant, Right Place」。まさに「適材適所」であり自生地と同じ環境なら無理なく緑化が出来るはずであります。ここは普通のガーデンにも通じることかもしれません。RHS Jはこのような最新の情報が毎月形を換えて写真付きで入手できる会報誌のある会でもあります。会費は安くは無いが情報誌だけと考えると高くないという会員の方もいらっしゃいます。再度宣伝でしたが、.....

時代は宇宙船地球号の『生物多様性保全のための自然』に特化を始め『我々の業務「緑化」』においてもこの波に乗らざる終えないのが現実と思います。



カエデ
kaede

“ポタジェガーデン”で勝ち抜く新ワークショップシリーズ第2回

「失敗しない今後の野菜戦略」、
蓼科・バラクラで前回を上回る76名が参加



10組に分かれて行われた第1部ワークショップ



パネルディスカッションのコーディネーターと講師

当会では、9月29日午後、長野県蓼科にあるバラクライングリッシュガーデンで第2回目となる“ポタジェガーデン”で勝ち抜く新ワークショップシリーズを「失敗しない今後の野菜戦略」と題して開催し、76名が参加。参加者は小売り、卸、メーカー、その他などで、第1部のワークショップでは、各業種が入って1テーブル7～8名に分かれた10組が、「来春の仕掛けは『野菜苗に花苗・果樹苗・花木のミックス植栽提案』+ 関連資材を含めた展開での売上げ130%アップ策」、「『コンテナ・プランター』と『菜園栽培向け』の考え方と品揃え、売場展開の仕方」など、4つのテーマから1つを選んで各グループで討論し、各グループよりどのようなことが話し合われたかの発表があった。

第2部のパネルディスカッションでは、前田悟理事（JA東海グリーン社長）がコーディネーターとなり、日光種苗小川浩徳専務、福井シード井村裕治社長、ハクサンインターナショナル水野隆社長、JOYアグリ河合秀文取締役中日本営業所所長の4氏がプレゼンテーションを行った。

会場を移した名刺・情報交換会は、28～30日に開催されたフラワートライアルと合同で開催され、約150名の業界関係者が一堂に会して行われた。

次回予告 11月26日（木）リック東京本社（東京都港区）

コリン マレー 『アジサイ図鑑』

大場秀章／太田哲英 訳

欧米で広く知られるアジサイ収集／栽培家のコリン・マレー女史。彼女の収集は1500種にも及び、フランスのナショナル・コレクション（1999年）にも認定された。本書はマレー氏のコレクションを中心にアジサイ属植物の多様な種や園芸品種を990点のフルカラー写真で紹介した、アジサイファン垂涎の一冊。巻末解説「アジサイ属研究小史と本書」付き。

判型/A4判 244頁
定価/6000円（税込）
発行/アボック社



日本最大級の祭典 JFTDフラワードリーム開催

花キューピットでおなじみの(社)日本生花通信配達協会は、7月4～6日、東京ビッグサイト(江東区)で、日本最大級の花のイベント「フラワードリーム2009 in 東京ビッグサイト」を開催した。花業界関係者をはじめ広く一般にも公開して約3万人(うち一般1万5千人)が来場。花の魅力や花文化に触れてもらう機会の提供と消費拡大に貢献した。

同協会および花キューピット組合員によるフラワーデザイン競技「ジャパンカップ」や、花き関連資材の見本市を、一般参加のフラワーデザインコンペティション「JALCUP」や生産者によるフラワーマーケットを併催することで一般来場者も楽しめる花の一大イベントとしてスケールアップした。



一般開放の最終日には予定になかったアレンジメントの公開競技がサプライズ的に開かれ満席に

日本園芸商協会 第24回通常総会 IGCAへ全力投球

全国の園芸小売商で組織する日本園芸商協会(神代繁近会長)は、7月22日、大阪府豊中市にある大阪植物取引所で「第24回通常総会」を開催した。総会は会員数127名中、出席76名(委任状含む)で成立。開催に際して神代会長から「どこにいても景気が悪いという話を聞くが、花はさまざまな場面で使われるチャンスがある。そのひとつとして花育は、園芸店から大きな市場までたくさんの人が関われる取り組みとして今後も推進していきたい。

来年はIGCA(国際ガーデンセンター協会)日本大会も行われる。高い意識をもって参加すれば多くのビジネスチャンスになり得る。高い意識で参加していただき、躍進の起爆剤にしてほしい」とあいさつがあった。



日本園芸商協会総会会場

会員紹介

アイビー (アイビーフラワーズ)

アイビーフラワーズは花・園芸・雑貨をトータルに楽しめるパリの花屋さんをイメージしたショップです。

品種にこだわった切花・めずらしい観葉植物・季節感と彩りを追求した鉢物・苗物で“快適な暮らしの創造”を提案します。



お問い合わせ

〒480-1103
愛知県愛知郡長久手町岩作字北山38
TEL 0561-63-1560
URL <http://www.ivy-flower.co.jp>



カエデ
kaede

コラム

Garden Cafe WA・SA・BI

大和総業株式会社 渡邊誠也

弊社グループは、大和総業(株)「本格和風ユニット門【数寄屋門】をはじめとする木質系メーカー」と、大和ガーデン(株)「創設35年を迎えた地域密着型エクステリア工事専門店」があります。この大和ガーデンは我々大和総業のグループ会社であるため、和風の外構工事の施工実績に関しては日本でもトップクラスの実績をもっております。しかし近年の住宅様式の変化から和風物件は減少し、和風に特化することが難しくなりました。外構工事物件の取得を目指し展示場のリニューアルを5年前に計画、実行し始めました。もともと中京エリアの専門店では展示場を持つことが当然のような環境で歩んできました、そのため商品展示だけの展示場を作っても集客は難しいと判断し、住宅や外構プランに主導権を持つ主婦層の来店しやすい環境をテーマに考えはじめ、近隣の主婦層が何を求めているか調べたところ、「普段の生活の中で少しでも時間を忘れゆっくりしたい」という事が分かってきました。そこで大和ガーデン敷地内にくつろげるカフェを設け、そこから展示場にお客様が流れるシステムを構築、Garden Cafe WA・SA・BI(以下、和さび)が誕生しました。この和さびのコンセプトはアジアリゾート。幅20m高さ4mの滝が流れる南国を思わせる庭、店内は深く座れるアジアテイストの家具で統一され、ガムラン音楽と滝から織り成す水の音を聴きながら、ゆっくりと食事やティータイムを楽しんでいただけるくつろぎの空間を作りました。それと和さび別室ではドッグスペースも設けペット向けエクステリア商品を用いて家族とペットの過ごし方のモデル展開も行っております。その甲斐あってか、この中京地区独特の喫茶文化(モーニングサービス文化)激戦区にも関わらず年間5万人の方々を足を運んでいただき、大和ガーデンの認知度もUPしました。お客様の9割弱が女性のお客様です。主婦層の集客に努めた結果です。また、同敷地内ではインテリアアジア雑貨、お花屋さんも増え、この秋からはカルチャースタジオとエステもオープン。より集客UPを見込んでおります。

ガーデンカフェ和さび

URL <http://www.cafewasabi.jp>



事務局だより

ガーデンを考える会
事務局 TEL052-571-7911
FAX052-571-2208

今回のワークショップは蓼科高原、バラクラ。高地で昼夜の温度差が大きいせいか、ダリアの花がとても鮮やかでした。1人の日本人が世界のダリアを牽引しているとは聞いてましたが、新品種の名前をつけるのが追いつかず、名付け親を探したそうです。